



# 2026年12月期 第1四半期決算説明資料

---

---

---

株式会社ヘリオス（東証グロース：4593）

2026/5/14

本資料は、株式会社ヘリオス（以下「当社」といいます）の企業情報等の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本資料に、当社または当社グループに関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述には、「予想」、「予測」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、それらに限られません。これらの記述は、本資料の作成時点において当社が入手できる情報を踏まえた、前提および当社の考えに基づくものであり、不確実性等を伴います。その結果、当社の実際の業績または財政状態等は将来に関する記述と大きく異なる可能性があります。

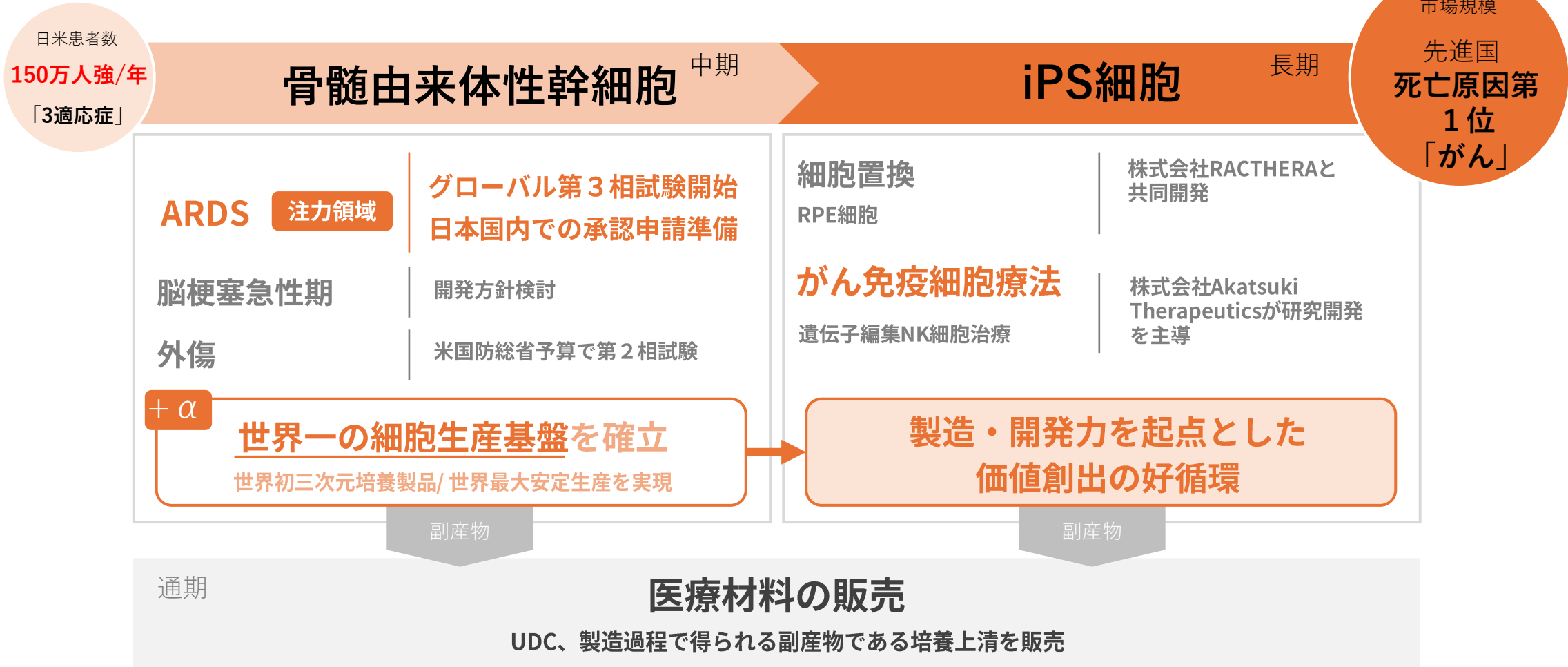
本資料における記述は、本資料の日付時点で有効な経済、規制、市場その他の条件に基づくものであり、後発する事象により本資料における記述が影響を受ける可能性があります。当社は、法令または取引所規則により開示をする義務を負う場合を除き、その記述を更新、改訂または確認する義務も計画も有しておりません。本資料の内容は、事前の通知なく大幅に変更されることがあります。なお、本資料の全部または一部を書面による当社の事前承諾なしに公表または第三者に伝達することはできません。

本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業等に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。



## 事業概況

# 類を見ない細胞生産力による 日本から世界にスケールする事業戦略



# ヘリオスは、バイオベンチャーから、 世界一の細胞医療メーカーへ。

世界初の三次元培養製品として、  
高い再現性とスケール性を備えた細胞供給を実現。  
日本の技術で、細胞医療を世界中で実装できることを証明します。

# 2026年1Q および4月の主な実績と日米承認への具体性：

## 主な実績

### 骨髄由来体性幹細胞

ARDS 治療薬のグローバル第3相試験（REVIVE-ARDS 試験）開始

国内での患者組み入れを先行して行い、その後アジア、米国、欧州等での治験を展開予定

経済産業省「再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援事業費補助金」交付決定

自社でグローバル市場に対応可能な再生・細胞医療に関するCDMO事業のインフラ構築

### iPS細胞

ヘリオス eNK<sup>®</sup>細胞の肺がんに対する抗腫瘍効果に関する論文が“Cancer Immunology, Immunotherapy”に掲載

### 医療材料

JENECELL 社との培養上清供給契約締結

培養上清（製品名：HLSI071）韓国及びワールドワイドに提供する化粧品原材料として継続的供給

アルフレッサ社との培養上清の取引基本合意書締結

培養上清（製品名：HLSI071）の継続的な売買に向けた合意

培養上清向け細胞加工製造用施設稼働

今後見込まれる培養上清の本格生産に対応

## 日米承認への具体性

### 申請戦略の明確性

ARDSに集中。日本の規制当局と承認申請ならびに本承認へ向けたプロセスに関して合意済み

開発プロセス上、最も成功確率が高く、規制当局とも明確に合意されているグローバル第三相試験開始

### 圧倒的な製造能力

経済産業省補助金により  
自社施設にて年間4万人分の製造が可能

自社でグローバル市場に対応可能な再生・細胞医療に関するCDMO事業のインフラ構築

Minaris社における製造準備も順調に進捗  
複数製造拠点による安定供給体制の構築

### 財務基盤の改善強化

約63億円の調達を経て100億円強のキャッシュポジション  
全ワラント\*行使により追加65.1億円調達可能

\*当社が過去発行し、本日現在行使が行われていない第21回、第22回、第26回及び第27回新株予約権

## 日本が可能にした、細胞の安定大量培養を目指す

世界初

### 三次元培養での承認

生産効率

安定性

50Lで承認申請(GMP)  
Minaris社で順調に製造中

世界最大

### 三次元培養能力

500L製造成功  
(nonGMP)

経産省助成獲得

年間4万人分  
生産可能

技術革新

### AI×ロボット

継続した生産効率の追求

サプライチェーンの  
強靱化

AI実験計画  
少ない実験回数  
で高性能な培養  
条件を発見

ロボット工学  
結果のばらつきを  
抑え再現性の高い  
データを取得

これまでの二次元培養  
生産効率 × 安定性 ×

手作業の  
二次元培養法と  
比べ

## 三次元培養では大量かつ安定的な製造が可能



画像提供：Sartorius AG

本画像は、現時点で当社が使用を想定している  
500Lバイオリアクター装置です。  
なお将来の使用を保証するものではありません。

## 家内制手工業から装置産業へ。細胞医療の産業化の転換点に。

### 2次元培養（従来法）



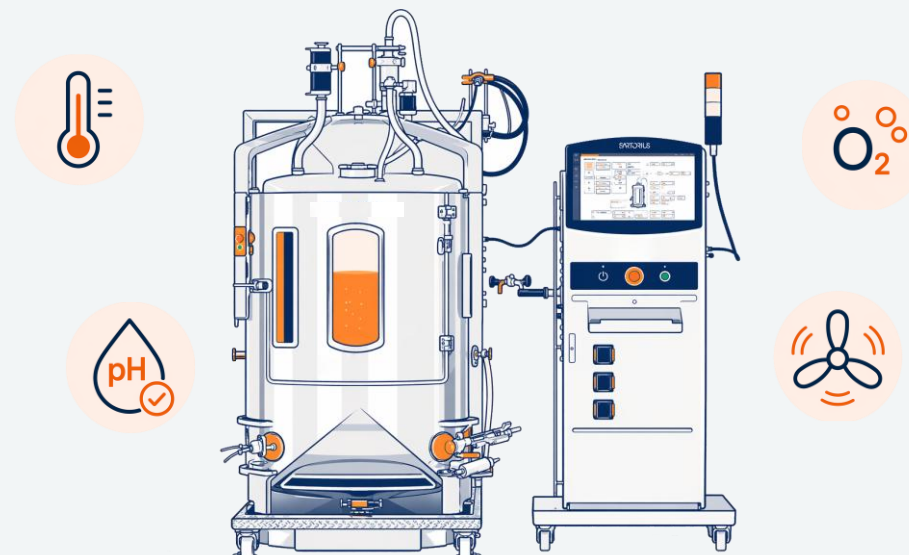
培養皿での手作業

作業者ごとのロット差

人員増=コスト増=品質ブレ

技術移転時に熟練者の派遣が必須

### 3次元培養（当社方法）



密閉型バイオリアクターで全自動

高い再現性(ロット差を抑制)

最小限の人員で対応

技術移転のしやすさ

## Minaris社/横浜事業所

所在地

神奈川県横浜市神奈川区恵比須町1 澁澤  
ABCビルディング1号館4階

広さ

約4,500m<sup>2</sup>クリーンルーム6部屋

最寄空港

東京国際空港(羽田空港)  
成田国際空港

[Minaris社グローバル製造拠点 \(英語\)](#)

50Lの  
三次元培養  
稼働中



## Healios/神戸

所在地

兵庫県神戸市中央区港島南町  
(DP-Lab KOBE) 内

経済産業省 令和6年度補正予算

「再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援事業費補助金」(約70億円の助成)を活用し、グローバル市場に対応可能なCDMO事業のインフラ構築と商業化を目指す。

500Lのバイオリアクターを設置し  
年間4万人供給可能予定

[DP-Lab 大和ハウスのレンタルラボ](#)

2028年1月  
稼働開始  
予定




## 日米政府からの助成

 **経済産業省**

### 設備費負担

経済産業省 令和6年度補正予算「再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援事業費補助金」交付決定

 **米国国防総省**  
メモリアル・ハーマン基金

### 治験費負担

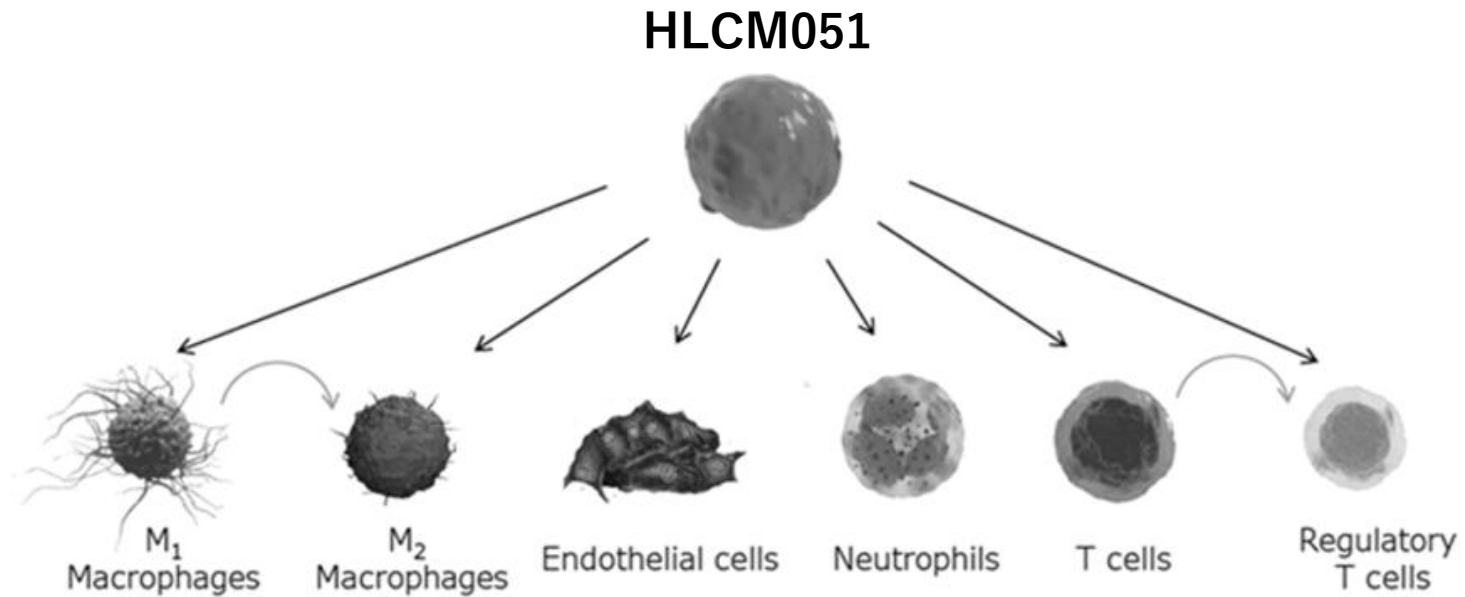
テキサス大学ヒューストン・ヘルスサイエンス・センター (UTH) メモリアル・ハーマン・テキサス・メディカル・センターにおいて治験進行中

世界初

三次元培養法による製造  
4万人/年への供給体制構築

米国  
全死亡原因  
第3位

外傷による多臓器不全・  
全身性炎症反応症候群の治療へ



HLCM051に期待される効果	主要論文
免疫調節	Kovacsovics-Bankowski et al. "Clinical scale expanded adult pluripotent stem cells prevent graft-versus-host disease" <u>Cellular immunology 2009</u>
抗炎症作用	Walker PA et al. "Intravenous multipotent adult progenitor cell therapy after traumatic brain injury: modulation of the resident microglia population" <u>Journal of Neuroinflammation 2012.</u>
血管内皮保護	Aranguen XL et al. "Multipotent adult progenitor cells sustain function of ischemic limbs in mice" <u>J Clinical Investigation 2008.</u>
臓器保護	Metheny L et al. "Human Multipotent Adult Progenitor Cells Effectively Reduce Graft-vs-Host Disease While Preserving Graft-Vs-Leukemia Activity" <u>Stem Cells 2021.</u>

## 全身性炎症反応関連疾患（SIRC）

極めて重篤で、治療薬の無いこの疾患群で、まずARDSで承認を取り、適応拡大を進める

## 病態の核心

(炎症暴走→多臓器障害)  
HLCM051の持つ免疫調整と血管内皮保護で治療可能

## プラットフォームの強み

三次元製造成功により世界最大の製造能力→世界中に供給可能

複数の疾患で著効データ  
競合が存在しない巨大市場  
救急医療に特化した自社販売が実現可能

疾患	障害臓器	HLCM051の有効性・開発ステージ
ARDS（急性呼吸窮迫症候群）	肺	日本申請準備中、グローバルP3、死亡率約4割改善
AKI（急性腎障害）	腎臓	米国P2、死亡率6割改善、腎機能47%改善
脳梗塞急性期	脳	日米P3、mRS<2 17%改善、mRS<3 15%改善
外傷後多臓器不全	多臓器	
敗血症	全身	

# パイプライン

	開発コード	対象疾患	細胞技術	地域	創薬	前臨床	臨床			申請	承認	備考
							P1	P2	P3			
SIRC (炎症)	HLCM051	急性呼吸窮迫症候群 (ARDS)	骨髄由来体性幹細胞	日本			Phase 2完了し、申請準備中					製造販売承認申請（条件及び期限付承認を目指す）準備中 希少疾病用再生医療等製品
				グローバル（日本・米国他）			Phase 3開始					グローバル第3相試験（REVIVE-ARDS試験）開始、米国でのREVIVE-ARDS試験実施に向け、IND準備中 Fast Track及びRMAT指定（米国）*1
	HLCM051	脳梗塞急性期	骨髄由来体性幹細胞	日本／グローバル（米国）			Phase 3（国内完了）					開発・申請方針検討中 先駆け審査指定制度認定（日本） Fast Track及びRMAT指定（米国）*1
	HLCM051	外傷	骨髄由来体性幹細胞	グローバル（米国）			Phase 2					米国国防総省予算とメモリアル・ハーマン基金にて治験実施中

\*1 米国FDAよりFast Track及びRMAT（重篤または生命を脅かす疾病や治療法のない疾病に対する新薬の開発に向け、一定の条件を満たした医薬品（RMATは細胞加工製品）に対し迅速承認を可能とする制度）指定を受けています

	開発コード	対象疾患	細胞技術	地域	創薬	前臨床	臨床			備考
							P1	P2	P3	
細胞置換	HLCR011	網膜色素上皮裂孔加齢黄斑変性	RPE細胞*2	日本			Phase 1/2			RACTHERA社*3と共同開発（2028年度上市目標）

\*2 Retinal Pigment Epithelium：網膜色素上皮細胞

\*3 住友ファーマ株式会社より再生・細胞医薬事業を承継

がん免疫細胞療法	AKT-01/ HLCN061	中皮腫、肺がん、肝がん、胃がん	eNK <sup>®</sup> 細胞	グローバル							Akatsuki社が研究開発を主導（開発コードAKT-01）
	—	固形がん	CAR-eNK細胞	グローバル							

カーブアウト予定のパイプラインは表記より除いています。

Three horizontal lines of varying colors (orange, red, yellow) on the left side of the slide.

## HLCM051 急性呼吸窮迫症候群 (ARDS)

## HLCM051 ARDS治療製品 日本国内での製造販売承認申請を最優先目標とする

- ✓ **ARDS治療製品のグローバル第3相試験開始**  
(REVIVE-ARDS試験)  
日本国内  
1月20日治験届提出  
2月3日治験開始
- ✓ **米国などでREVIVE-ARDS試験開始**  
(日本における条件及び期限付承認後の検証試験の位置づけ)
- ✓ **Minaris社での商用生産体制確立**
- ✓ **営業・マーケティング体制確立**
- ✓ **日本での製造販売承認申請**  
(条件及び期限付承認を目指す)

## 概況

国内での製造販売承認申請（条件及び期限付承認を目指す）  
グローバル第3相試験（REVIVE-ARDS試験）実施

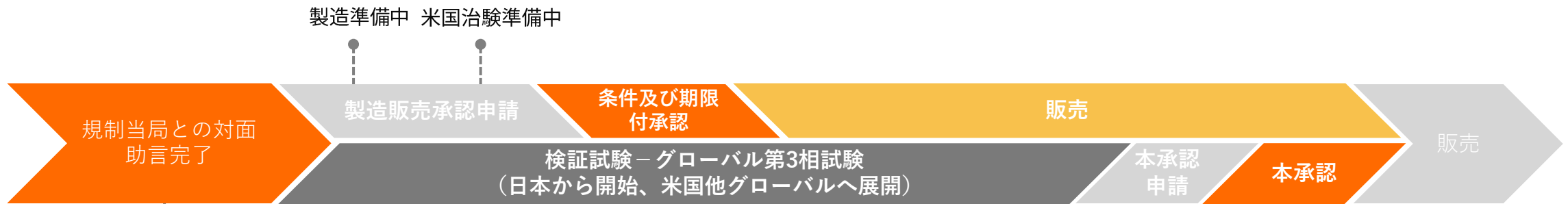
## ARDS

2026年2月、REVIVE-ARDS試験開始

患者組み入れは日本から始め、その後米国を中心としたグローバル治験を実施すべく準備を加速

第2相試験（ONE-BRIDGE試験）の良好な結果と検証試験としてのREVIVE-ARDS試験の実施を前提に、国内での製造販売承認申請準備（条件及び期限付承認を目指す）

申請に向け、医薬品としての商用生産体制準備中



製造準備中 米国治験準備中

製造販売承認申請

条件及び期限付承認

販売

検証試験－グローバル第3相試験  
(日本から開始、米国他グローバルへ展開)

本承認申請

本承認

販売

2026年2月 グローバル第3相試験国内開始

2024年12月、2025年1月/4月 PMDAと製造/臨床パッケージ、グローバル第3相試験への国内被験者組み入れ合意

<p><b>治験概要</b></p>	<p>二重盲検、無作為割付、プラセボ対照（ARDS 診断後 48 時間以内投与）</p>
<p><b>被験者</b></p>	<p>肺炎を原因とする ARDS 患者</p>
<p><b>地域</b></p>	<p>米国、日本、アジア太平洋、欧州</p>
<p><b>症例数（患者数）</b></p>	<p>最大 550 例（HLCM051: 275 例、プラセボ: 275 例）                  （300 例及び 400 例の各段階で中間解析実施。いずれかの時点で治験薬の有効性が統計学的有意と認められた場合、治験完了）                  ＊地域別の組入数未定</p>
<p><b>主要評価項目</b></p>	<p>VFD（28 日間のうち人工呼吸器を装着しなかった日数）</p>
<p><b>副次評価項目（一部）</b></p>	<p>死亡率（投与後 90 日以内）</p>



日本2.8万人

約40倍超へ事業規模が拡大



全世界110万人超

## 事業方針

- 1) 最も投資効率の良い米国・日本市場で自社治験を行う
- 2) 米国市場以外（韓国、台湾、中国）はライセンス契約を締結し、早期の収益化を目指す

## 世界のARDS推計患者数

中国67万人、米国26.2万人、欧州13.3万人、日本2.8万人（市場規模順）

（出所）

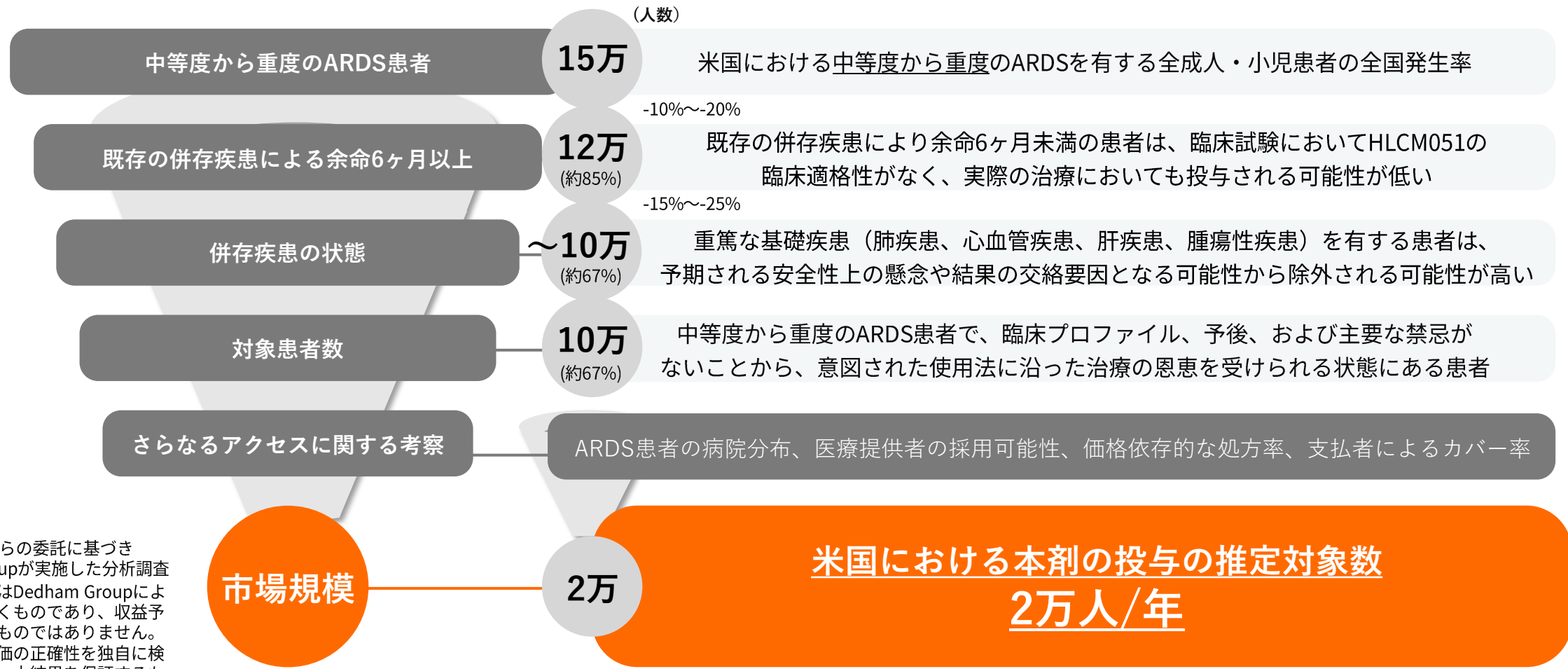
日本：疫学データの発症率と人口統計の日本総人口を基に当社推定

米国：Diamond M et al. 2023 Feb 6. In: StatPearls [Internet]. Treasure Island (FL): StatPearls Publishing; 2023 Jan-. PMID: 28613773

欧州：Community Research and Development Information Service (CORDIS) 2020 7-9

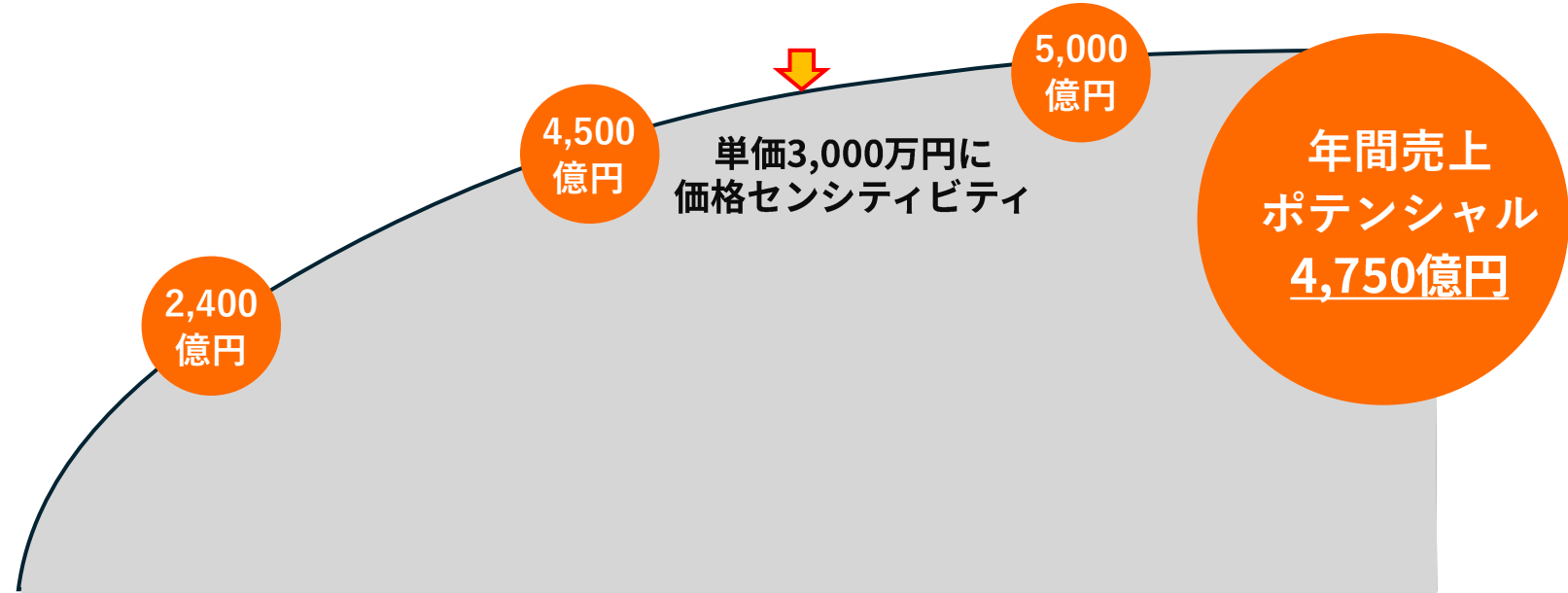
中国：song-et-al-2014-acute-respiratory-distress-syndrome-emerging-research-in-china

## 米国におけるARDS適応症の推定市場規模と潜在需要



出所) 当社からの委託に基づき Dedham Groupが実施した分析調査  
 なお、本予測はDedham Groupによる評価に基づくものであり、収益予測を構成するものではありません。  
 当社は当該評価の正確性を独自に検証しておらず、本結果を保証するものではありません。

## 売り上げと単価の関係予測



出所) 当社からの委託に基づき Dedham Groupが実施した分析調査

なお、本予測はDedham Groupによる評価に基づくものであり、収益予測を構成するものではありません。  
 当社は当該評価の正確性を独自に検証しておらず、本結果を保証するものではありません。

1\$=150円にて試算

薬剤単価設定	約1,125万円 (7.5万\$)	約2,250万円 (15万\$)	約3,750万円 (25万\$)	米国においては 単価約3,000万円(20万USD) が最適な価格
	2.1万人	2万人	1.3万人	
5年目以降の 治療患者総数				米国における本剤の投与の推定 対象数



## HLCM051 脑梗塞急性期 (STROKE)

## 概況

開発、申請方針を検討中

## 脳梗塞急性期

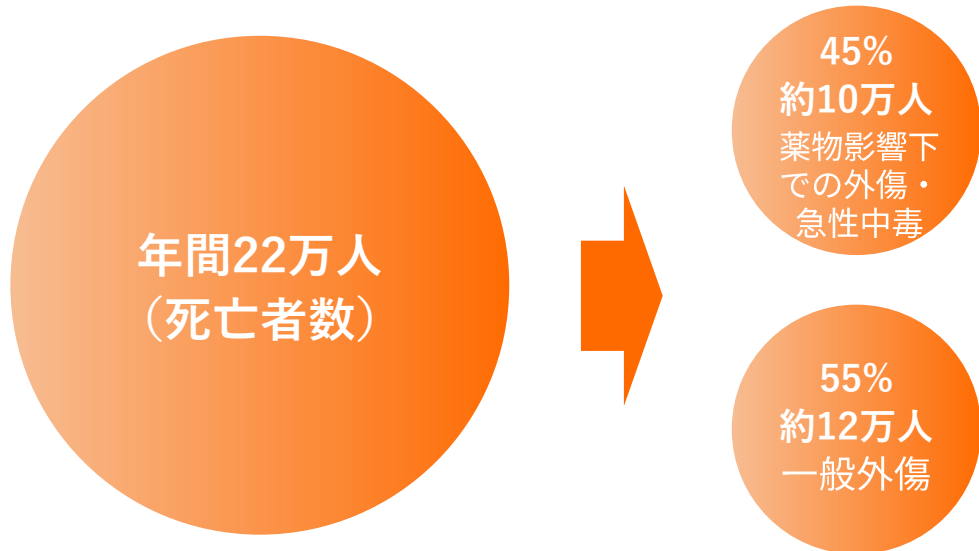
医療特化型のLLMを用いた電子カルテと連携したデータ収集体制を構築予定

PMDAと継続協議（先駆け審査指定品目）

規制当局との協議状況ならびに会社のリソース状況を考慮し、改めて開発方針を検討する



**HLCM051 外傷由来急性腎不全 Trauma induced AKI**



## 市場特性

死亡原因	全年齢死亡原因 第3位	45歳未満の死亡原因 第1位
	年間22万人死亡	年間8万7千人
戦時外傷	アフガニスタン	イラク戦争
	死傷者 2,354名 傷病者 20,149名	死傷者 4,431名 傷病者 31,994名

(出所)

米国国防総省 DOD アメリカ疾病予防管理センター CDC アメリカ国立衛生研究所 NIH

## 外傷から死に至る病態

外傷に起因する全身性炎症反応症候群 (SIRS) は、外傷 (交通事故、銃創など)、薬物、感染を始めとする外部からのストレスに対する過剰な自己防御反応であり、自律神経、内分泌、血液、免疫学的変化がまずおきます。

SIRS : Systemic Inflammatory Response Syndrome

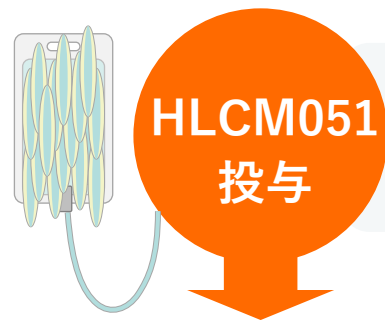
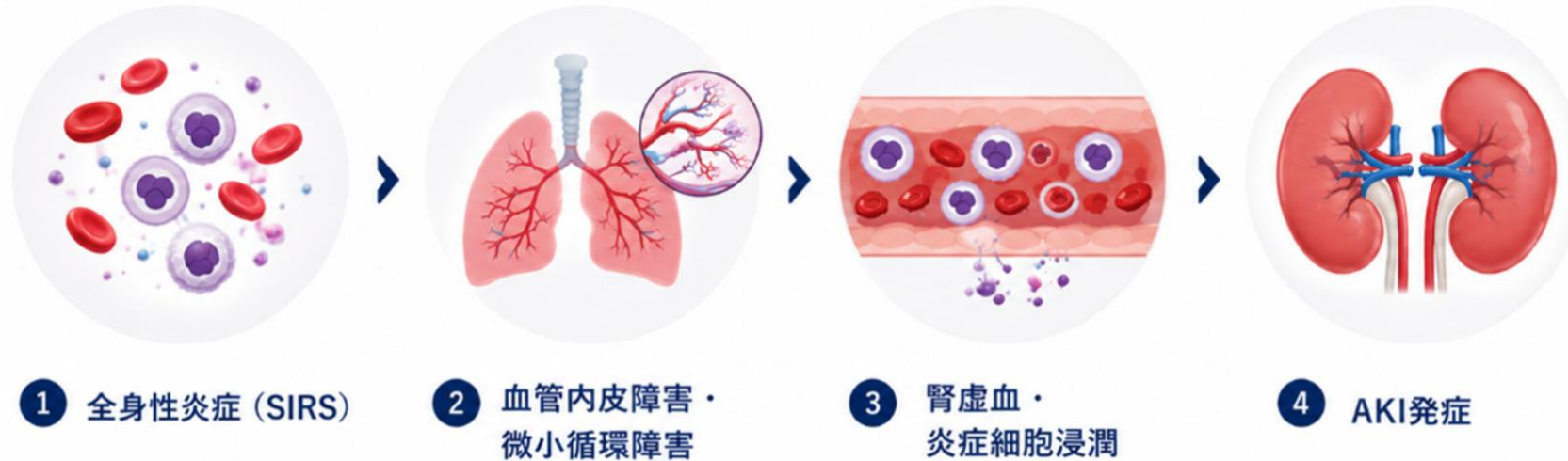
この変化は、初めは体を防御する目的であっても、調節不可能なサイトカインストームとなり、大規模な炎症カスケードを引き起こし、臓器障害を起こし、死に至ります。

現在この状況に至った患者さんに対する有効な治療薬は無く、それぞれの症状に対して対症療法を行うのみです。

## HLCM051の期待される効果

ARDSなどの治験で示された通り、急性期の炎症を抑える力がサイトカインストームを抑え込み、患者さんの予後に効果があるものと期待されます。外傷の治験では、効果評価をしやすいよう主要評価項目を腎機能に設定して治験を進めております。

## 交通事故、労働災害、銃創などによる外傷からのAKIの発症



マクロファージのM1→M2誘導による抗炎症作用

IL10 ↑ (抗炎症)

TNF- $\alpha$  / IL-1 $\beta$  ↓ (炎症抑制)

腎保護作用は、全身性の免疫調節を介した間接的な作用

全身炎症の抑制

血管内皮の安定化

微小循環改善

腎障害の軽減 (AKI抑制)

多臓器不全の進行抑制

既存データ解析により

## HLCM051のさらなる効果の可能性を確認

米国および英国で実施したARDS患者を対象とした試験のデータから、重症範囲にあり、かつ急性腎不全（AKI）を併発した患者群において、HLCM051の作用特性に関する重要な知見が得られています。

重症患者群の死亡率低下

↓ 60 %

重症肺炎患者群において、HLCM051投与により死亡率が60%低下する傾向を確認

AKI併発症例の腎不全改善

↑ 47.2 %

急性腎不全（AKI）を併発した症例において、腎機能障害が47.2%改善される結果が得られた

## MATRICS-1試験（米国）

### 概況

外傷患者を対象とした第2相試験

### 外傷

米国国防総省とメモリアル・ハーマン基金で実施中

テキサス大学ヒューストン・ヘルスサイエンス・センター（UTH）

メモリアル・ハーマン・テキサス・メディカル・センターにおいて治験進行中

- 交通事故、労働災害、銃創などによる外傷を対象
- **45歳未満の死亡原因の第1位、米国の全死亡原因の第3位、QOLを低下させる原因の第1位\***
- HLCM051による外傷治療は承認後、米軍において大規模に採用される可能性がある

\* 出典：Centers for Disease Control and Prevention

<p><b>治験概要</b></p>	<p>外傷による多臓器不全／全身性炎症反応症候群患者への無作為二重盲検プラセボ対照第2相試験</p>
<p><b>被験者</b></p>	<p>出血性ショック後に初期蘇生を生存し、ICUに入室した外傷患者</p>
<p><b>地域</b></p>	<p>米国</p>
<p><b>症例数（患者数）</b></p>	<p>156名</p>
<p><b>主要評価項目</b></p>	<p>腎機能（投与後30日）＜30日以内（または退院まで）の最重症AKIステージ＞</p>
<p><b>副次評価項目（一部）</b></p>	<p>死亡率</p>




## HLSI071 骨髓由来体性幹細胞培養上清

## 有望見込顧客への供給具体化に向けた個別協議中

2026年1月21日

[アルフレッサ社との体性幹細胞培養上清液の取引基本合意書締結](#) 

培養上清（製品名:HLSI071）の継続的な売買に向けた取引基本合意書を締結

2024年6月5日付の「[アルフレッサ社との業務提携基本契約及び社債買取契約締結のお知らせ](#)」のとおり、当社製品等の流通／販売に関する業務提携基本契約を締結しており、本合意はその業務提携を発展させるためのもの。本合意書に基づき、両社は製品流通および供給体制の具体的な取引内容の詳細について協議を重ねていく。

2026年4月7日

[JENECELL社（アルフレッサ社子会社）との培養上清供給契約締結](#) 

培養上清（製品名:HLSI071）の韓国及びワールドワイドに提供する化粧品原材料の供給契約

初回発注分として1億4,400万円相当の製品を受注。2026年7月以降、当社からJENECELL社へ順次製品を出荷予定。



Bringing Japan's Advanced Stem Cell Science to Life in Korea

## 会社概要

会社名  
株式会社ジェネセル  
(JENECELL, Co.,Ltd.)

所在地  
397 Seochodae-ro #A-1907,  
Seocho-gu, Seoul, 06616, South  
Korea

代表者  
CEO ジュ・ヒソク

事業内容  
医薬品、化粧品、化粧品原料、  
医療機器等の製造および卸売・  
小売業等

設立年月  
2025年9月

大株主  
アルフレッサ株式会社 100%

## 医薬品

先端幹細胞技術でカスタマイズ型の再生医薬品を開発し、グローバル基準に適合する品質と安全性を提供



## 化粧品

幹細胞培養液を活用したプレミアム化粧品を開発し、肌の健康と若さを保つ革新的なソリューションを提供

## 原料事業

ヒト由来の幹細胞培養液をベースに、様々な製品に適用可能な差別化された原料ソリューションを提供



引用：<https://www.jenecell.com/jp/>

## 用途やニーズに応じて「凍結乾燥品」と「液体品」の2つの形態で提供

### 凍結乾燥品

長期保存・輸送に優れた  
安定供給に最適な形態

#### 特徴

- ・長期保存が可能
- ・軽量で輸送コストを低減
- ・グローバル展開に適している
- ・使用時に再溶解して使用



おすすめ用途  
研究用試薬

### 液体品

そのままの形態ですぐに使える

#### 特徴

- ・希釈や再溶解が不要で即使用可能
- ・成分の変性が少なく培養上清本来の成分特性を保持
- ・製造リードタイムが短い
- ・冷蔵・冷凍での保管が必要



おすすめ用途  
化粧品原料

本画像は製品イメージで実際の提供製品とは異なります。



本画像は製品イメージで実際の提供製品とは異なります。

## 製造施設（CPC）の概要

細胞加工製造用施設（CPC）  
が本格稼働

### 所在地

兵庫県神戸市中央区港島南町  
1丁目5番5号  
神戸バイオメディカル創造センター内

### 施設面積

約80㎡

### 製造内容

細胞培養上清液の製造

### 稼働状況

本格稼働中（商用生産対応）



## 決算概況

前年同期比で研究開発費は3.2億円増加し、当期利益は▲34.6億円となりました。

(単位：百万円)

	2025年12月期 第1四半期	2026年12月期第1四半期		
			前年比増減額	主な増減要因
売上収益	38	8	▲29	
営業利益	▲744	▲1,130	▲386	販売費及び一般管理費の増加 ▲65 研究開発費の増加 ▲315
当期利益	▲2,562	▲3,457	▲895	金融収益の増加 +52 金融費用の増加 ▲552 (金融収益及び金融費用は主に非現金損益項目で構成、次 頁以降の説明参照)
研究開発費	482	798	315	
当社従業員数 (社員のみ)	57名	72名	15名	

(注) 財務数値の詳細につきましては、本日公表している第1四半期決算短信 P9をご参照ください。

## 金融収益・金融費用の内容

当第1四半期連結累計期間において、金融収益326百万円、及び金融費用2,659百万円を計上いたしました。

金融収益の主な内訳は有価証券評価益260百万円、Saiseiファンドにおける外部投資家持分への損益振替額<sup>※1</sup>48百万円、及び受取利息16百万円の計上であり、金融費用の主な内訳はデリバティブ評価損<sup>※2</sup>2,573百万円、及び新株予約権発行費71百万円の計上であります。

金融収益の前年同期比の増加額は52百万円であり、主な内訳は有価証券評価益の増加260百万円、Saiseiファンドにおける外部投資家持分への損益振替額<sup>※1</sup>の減少207百万円となります。金融費用の前年同期比の増加額は552百万円であり、主な内訳はデリバティブ評価損<sup>※2</sup>の増加527百万円、及び新株予約権発行費の増加56百万円となります。

※1 Saseiファンドにおける外部投資家持分への損益振替額：Saiseiファンドにおける外部投資家持分への損益振替額とは、当社の連結子会社であるSaisei Bioventures, L.P.及びSaisei Bioventures, L.P.から出資を受けている株式会社Akatsuki Therapeuticsの損益をSaisei Bioventures, L.P.に出資している当社以外のリミテッド・パートナーに対して振替計上しているものです。Saisei Bioventures, L.P.は、ゼネラル・パートナーであり、当社の連結子会社である Saisei Capital Ltd.により設立されたりミテッド・パートナーシップです。

※2 デリバティブ評価損：当社が発行しました第21回新株予約権、第22回新株予約権、第26回新株予約権及び第27回新株予約権の公正価値の変動に伴い発生した損失であり、国際会計基準（IFRS）の規則に従い計上しております非現金支出費用です。

日本基準においては、新株予約権の払込額を純資産として計上しております。国際会計基準（IFRS）においては、新株予約権の払込額を負債に計上後、毎期末、公正価値を測定し評価損益を金融収益または金融費用に計上しております。

2026年3月末の流動資産は118億円（前期末比：+54億円）となり、資産合計は235億円となりました。

（単位：百万円 / 下段：構成比）

	2025年12月期末	2026年12月期第1四半期末	
		前年増減額	主な増減要因
流動資産	6,441 (37.8%)	11,837 (50.4%)	5,396 現金及び現金同等物の増加 +5,188 (現金及び現金同等物の残高 10,868)
非流動資産	10,613 (62.2%)	11,647 (49.6%)	1,034 その他の金融資産の増加 +1,081
資産合計	17,054 (100.0%)	23,484 (100.0%)	6,430
流動負債	3,224 (18.9%)	5,783 (24.6%)	2,559 その他金融負債の増加 +2,607
非流動負債	8,932 (52.4%)	10,124 (43.1%)	1,192 Saiseiファンドにおける外部投資家持分の増加 +1,209
負債合計	12,155 (71.3%)	15,907 (67.7%)	3,752
資本合計	4,899 (28.7%)	7,577 (32.3%)	2,678 当期利益の計上 ▲3,457 新株の発行 +6,098
負債及び資本合計	17,054 (100.0%)	23,484 (100.0%)	6,430

（注）財務数値の詳細につきましては、本日公表している第1四半期決算短信 P7-8をご参照ください。

事業全般については「[事業計画及び成長可能性に関する事項](#)」を参照ください。



<お問い合わせ先>  
株式会社ヘリオス  
IR広報部

報道関係者の方:pr@healios.jp  
投資家の方:ir@healios.jp  
<https://www.healios.co.jp/contact/>